

3、單獨ノ小作組合ノアルトコロデハ、小作組合ノ役員ニ働キカケ
 共同闘争ヲ持チカケル事ハ勿論ダガ小作組合ノ幹部ニハ往々エ
 シテ村會議員等ニナリタサノ野心家ガナツテ居ル事ガアルノデ
 實際上小作人ノ利益ヲ守ル純眞ノ幹部ナラヨイガ、ソウデナイ
 場合ガアルカラ幹部ダケデナク出來ル限リ小作人組合ノ大衆ニ
 近ヅキ共同ノ闘争ニ立チ上ラセルヨウ努メネバナラヌ。
 其ノ他演說會、ピラ、傳單、リーフレット等有効ニ使用シ輿論
 ヲ喚起シ麥年貢全廢ノ聲ヲ全農民自身ノ心カラノ要求トシテ立
 上ラセ闘争ニ突進セシメネバナラヌ。

(三) 闘争組織ノ結成ト其ノ任務

執拗ノ組織活動ト闘争ガ交互ニ作用ヲシ合ツテ闘争モ組織モ擴
 大シ發展シ強化サレテ行ク。
 一時ニ闘争組織ヲ完備サセ様トシテモ無理ダ、闘争ヲ通ジテ完
 備シ戦ヒ抜ク事が出來ルノダ、ダガ少ク共地主ニ對シ全廢要求

ヲ提出スル前ニ部落或ヒハ部落ヲ基礎トシテ村全体ノ闘争委員
 會組織ト其ノ闘争資金ノ積立チガナサレテ居ナクテハナラヌ。
 一、麥年貢全廢同盟

1、原則トシテ部落ニ基礎ヲオイテ部落内全小作人ノ民主的ノ選舉
 ニ依ツテ數名ノ代表者ヲ選ビ同盟ヲ結成シ麥年貢不納ヲ斷行シ
 地主ニ向ツテ全廢ノ要求スル此ノ同盟ガ組織ノシメテ、リマヤ
 リ闘争ノ擴大發展ヲハカリ交渉動員等々情勢ニ應ジテ一切ノ闘
 争ヲ指導シ上部組織ト緊密ニ連絡ヲトツテ行ク。

2、闘争基金トシテハ全廢ヲ貫徹スル迄毎年麥年貢ノ全額ヲ積立テ
 一切ノ闘争資金ニアラヌ。

3、大地主ニ對抗シテ何々家小作人全部ヲ集メテ、何々家麥年貢全
 廢同盟ヲ組織シ闘争スル方ヲ便宜ナ場合、コウシテ組織ヲトル
 事ヲ妨ゲナイ。
 ダガ部落ニ基礎ヲ置ク事が闘争ノ本格デアル事ニハ變リハ無い。